

## 自然保護委員会山行報告（はりま支部共催）

晩秋の赤穂／雄鷹台山を歩く

（１）日 時

令和５年十二月十日（日）

９時１０分～１３時

（２）参加者

神戸支部８名（スタッフ２名環境省アクティブレングジャー１名含む）、

はりま支部１４名 計２２名

（３）コース

J R 赤穂線坂越駅～雄鷹台山登山口～後山～雄鷹台山～大師堂～J R 播州赤穂駅

（４）概 要

当初は雨模様の天気予報で山行の実施が危ぶまれる状況であったが好転し晩秋の小春日和と暖かく、春霞のようにモヤが掛かっている。神戸方面からは姫路駅でJ R 赤穂線に乗り換え坂越駅に９時９分着の電車で集合となった。

坂越駅から雄鷹台山の裾に沿って登山口に向かう。登山口からは稜線に向かっていきなりの急登で体が温まる。暫く登ると最初の鉄塔があり、そこで体温調整（服装）を行う。稜線に出ると幅の広い防火帯が伸びて見通しが良い。霞が掛ったようで播磨灘も家島群島が霞の中に見える。小豆島はうっすらとそれらしき島影が見える程度で、千種川を挟んで東に尼子山、千種川の河口の先には赤穂御崎が霞んでいる。

稜線の防火帯が目の前にまっすぐ天に聳えるように伸びて、登りきれのかな？と思わせるが、一步一步辿って行くと思ったよりも早くたどり着く。こんな短いけれど急な坂が幾つか続く。

後山のピークで環境省の中村アクティブレングジャーから瀬戸内海国立公園の設立・整備に関する説明を受ける。眼下には瀬戸内海が、稜線の北側には山陽自動車道・山陽新幹線が遠望できる。

後山を過ぎると直ぐに分岐に出くわす。分岐は雄鷹台山に向かってバックするように鋭角に分かれており、見落として直進してしまわない様に注意が必要である。道は稜線に沿って幾つかのアップダウンを繰り返して雄鷹台山に至る。雄鷹台山頂上には立派な石碑があり、眼下に赤穂市内を一望できる。

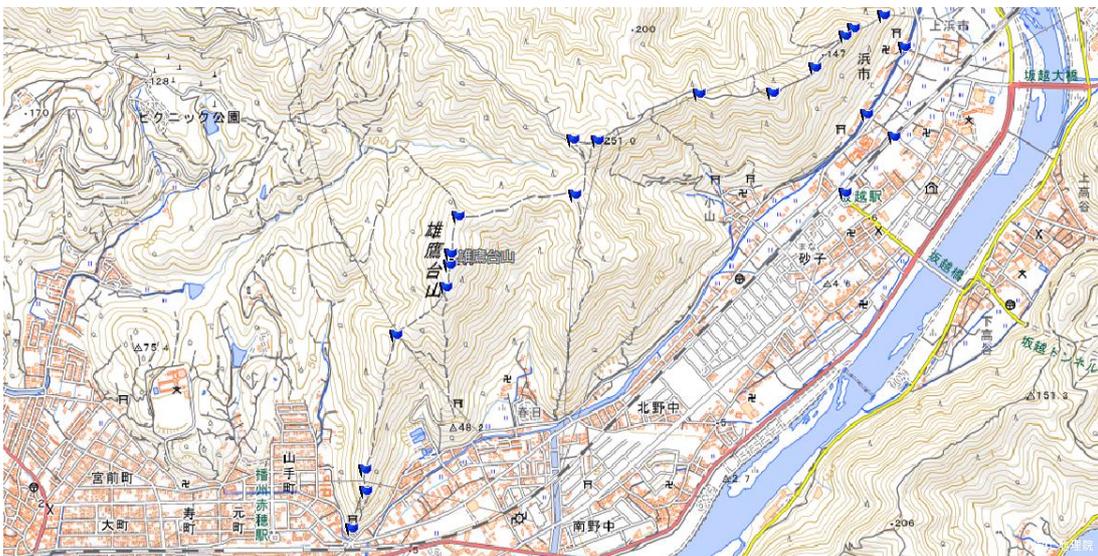
雄鷹台山頂上で昼食休憩とする。坂越側から雄鷹台山までは木々に囲まれた静かな稜線であるが、雄鷹台山から麓の大師堂にかけては背の高さを越える程のドウダンツツジの並木の植栽が続いている。春の花の季節にはさぞや白い鈴のようなドウダンツツジの花が咲き誇り見事であろう。最後は急な下り坂を経て大師堂にでる。此処からはJ R 播州赤穂駅は直ぐ近い。播州赤穂駅にて解散し帰途についた。赤穂線は時間帯によっては１時間に１本の事もあり注意が必要です。



後山での環境省アクトイブ  
レンジャーによる説明



雄鷹台山での集合写真



コース図